

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

2019年 2月 1日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団  
会長 喜多悦子 殿

## 2018年度地域啓発活動助成

### 活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

#### 記

活動課題

地域医療で頻度の高い精神疾患に関する研修プログラム

活動団体名： 岡山大学病院 精神科リエゾンチーム

活動者（助成申請者）名：井上 真一郎

## 1. 活動の目的

地域医療において患者に精神疾患を認めることがあるが、特に高齢者やがんの終末期の患者が多いため、これらを背景としてせん妄・認知症・うつ病がみられる頻度が極めて高い。ただし、地域医療に携わる医療者は、これらの精神疾患に関する知識やスキルが必ずしも十分とは言えないにも関わらず、非専門家のみで対応せざるを得ないのが現状である。そのことにより、患者に適切な精神的な治療やケアが提供されず、さらなる精神症状の悪化をきたす可能性がある。

活動者(助成申請者)は精神科医であり、岡山大学病院において2009年に精神科リエゾンチームを立ち上げた。精神科リエゾンチームには、何らかの身体疾患に罹患した入院患者がせん妄・認知症・うつ病などの精神疾患を併発した際、専門的な評価や介入を目的として身体科からコンサルトされる。年間で約900件の新規コンサルテーション患者の診療にあたり、その豊富な臨床経験をもとにして、これまでにいくつかの多職種研修プログラムを開発・実施してきた。

今回、この経験を活かし、地域医療における研修プログラムを開発・実施することで、可能な限り地域医療へ貢献したいと考えたものである。

## 2. 活動の内容・実施経過

研修会は、岡山県内の地域医療や在宅医療に従事している医師、看護師、薬剤師等の医療従事者を対象とした。特に精神科医との連携が少ない地域を考慮し、2018年9月1日に津山市、2019年1月14日に岡山市にて実施した。

プログラムの内容としては、事前に各疾患の基礎的知識に関するe-learningを実施し、研修会はグループワークやロールプレイをメインに対話型・体験型の集合研修とした。すなわち、対話型・体験型の研修により受講者自身が能動的に学習できることを主眼とし、不足する情報・知識については事前学習で補うこととした。

事前学習では、精神科医がパワーポイントを用いてせん妄・認知症・うつ病の講義を行ったものを収録し、オンライン上のサイトに掲載した。参加者はそのサイトにアクセスし、事前アンケート・テストに回答後、事前学習を行うようにした。

研修会では、前半で3つの精神疾患に関する復習のための講義を行い、グループワークやロールプレイのために必要な知識を確認した。後半では、せん妄と認知症に関しては仮想症例をベースとしたグループワークを行い、うつ病についてはうつ病患者への接し方に関するロールプレイを実施した。さらに、全体でもディスカッションを行い、包括的なアセスメントや治療、ケアなどについて気づきや学びが共有できるように工夫した。最後に、さらなる知識の定着を目的として、3疾患の鑑別についてミニレクチャーを行った。



研修会(2018. 9. 1. 津山市)



研修会(2019. 1. 14. 岡山市)

### 3. 活動の成果

研修会の参加者は計 30 名であり、職種の内訳は医師 2 名、看護師 13 名、薬剤師 10 名、作業療法士 3 名、精神保健福祉士 1 名、保健師 1 名であった。

各研修会の前後に行った質問紙調査やテストの結果については、以下①および②の通りである。各疾患の評価や対応、薬物療法に関する自信度について、いずれの研修会も実施前後で有意差を認めた。また、テストの得点についても、岡山市で行った研修会において研修会実施後で有意に上昇した。また、期待一致度や臨床活用度などにおいても、高い満足度が得られた。なお、自由記述内容については③の通りである。

① 研修会前後比較 (アンケート結果)

表1. 研修会前後のアンケート、テストの平均点(津山)

自信度(90点満点)**		テスト(15点満点)	
事前	事後	事前	事後
44.41	51.65	11	11.71

\*\*p<0.01

表2. 研修会前後のアンケート、テストの平均点(岡山)

自信度(90点満点)**		テスト(15点満点)**	
事前	事後	事前	事後
46.54	57.92	9.54	11.15

\*\*p<0.01

表3. 研修会前後のアンケート、テストの平均点(全体)

自信度(90点満点)**		テスト(15点満点)**	
事前	事後	事前	事後
45.33	54.37	10.37	11.47

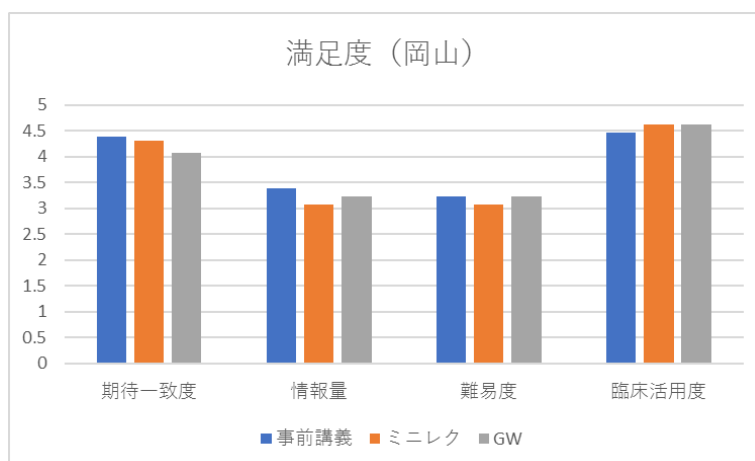
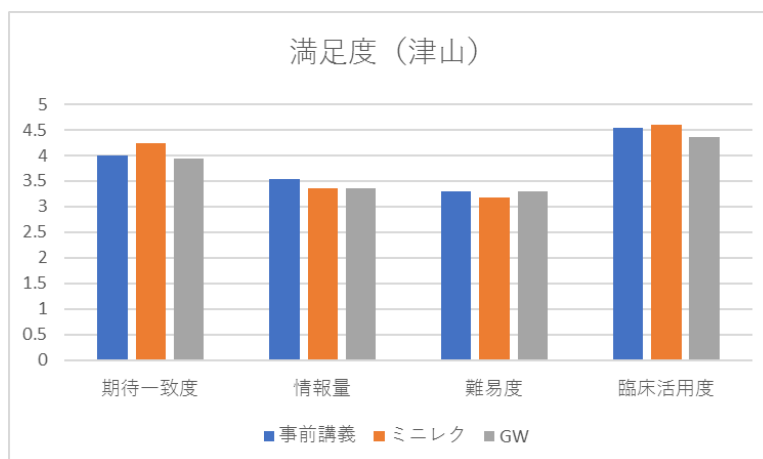
\*\*p<0.01

② 事前講義、ミニレクチャー、グループワークの満足度

【期待一致度】自分が期待していたものと一致していましたか？ 【情報量】 情報量は適切でしたか？ (少→多)

【難易度】 内容は難しかったですか？ (易→難)

【臨床活用度】 実際の臨床に役立ちそうですか？



## ③ 自由記述内容

## 第一回(津山)

職種	感想
医師	全体で質問する際に、それぞれの職種をクリアにした上で話を聞ければもっといいと思いました。というのも、グループワークで訪看さんの現場の話がとても勉強になりました。
看護師	ロールプレイ、うつの対応がむずかしかった。会話をしている時の手がかかり、糸口的な言葉がけが知りたいと思います。
	日頃うつ病の方と関わるのが少ないため、勉強になりました。
	うつ病の患者さんになりきるのには難しかったが、相手の方の声かけの仕方など今後自分が関わるのに参考になりました。
	とても実践できるものでした。ロールプレイは実際してみないとわからないので良かったです。うつ病の対応はとても難しく、病棟での対応が難しいと思いました。低活動性に対し、できることを提案していこうと思います。
	コミュニケーション（ロールプレイ）は今までにない内容（方法）だったので、とても興味深く、また気づきも得られました。訪問Nsや薬剤師さんの視点により、講義から学んだことに加え、実際の症例からの学びが得られました。
	講義を受けていたらせん妄だったと気づく症例が今までにもありました。すぐ医師に報告して対処できたのですが、これからは早期にせん妄に気づくことを目標に頑張りたいと思います。ありがとうございました。
	ロールプレイをさせてもらえて日頃の業務の中でのふりかえりをするのができました。今後も研修会があれば出席したいと思っています。
私の学生時代にはなかった病気です。もう少し深く勉強したいと思いました。	
薬剤師	せん妄、うつ病の鑑別について分かりやすい講義だったと思う、Dr.や病棟スタッフから投薬についての相談をされた時、答えにくいことが多かったので、本日の研修会のことをふり返ってほしいと思う。” うつのロールプレイ” は設定を把握するのに時間がかかる前にスタートだったので精神科受診のことを言うまでたどりつかなかった。
	うつ病の人がどういう話をされるのかは想像で行ったが、実際の場合はどういう気持ちで話されているのかわからないので難しかったです。ロールプレイで悪い対応と良い対応をしたのはその後のロールプレイがやりやすくなったので良かったと思います。
	うつ病でのロールプレイをもう少し少なくして、グループ討議を増やして

	もいいと思った。
作業療法士	今の臨床に役立つこともありました、少し困っているようなケースを出して検討し合える場があるといいなと思いました。

## 第二回(岡山)

職種	感想
看護師	講義はとても分かりやすかった。ロールプレイやグループワークなどで、知識の共有や場面を想像して経験することができ、とても有意義だった。臨床でも活用できる内容が多いと感じることができた。
	時間配分も良く、悩む時間もあり楽しく GW が出来た。
薬剤師	色々勉強になりました。ありがとうございました。
	地域の中小病院や薬局ではなかなか新しい情報や知見が得られにくいため、色々な職種の方と情報交換が出来、とても良い刺激になりました。
	参加人数が少ないのに驚きました。もったいないと思います。
	この内容はもっと広く受講すべきものだと思います。視点が今までになくよかったです。
	ありがとうございました。明日からの仕事に役立ちそうです。
	グループワークを自分達のグループで実施してみたい。例えば、地区の薬剤師の集まりなど。
	医師、看護師、ケアマネ他、パラメディカル等の参加。臨床心理士さんも参加してみてもどうか？
保健師	とてもわかりやすく、明日からの業務に役立てることができる内容でした。今後も精神疾患や発達障害に関する研修会があれば参加していきたいです。ありがとうございました。
作業療法士	グループワークを行う研修会へ参加したことがなかったため、とても勉強になりました。ありがとうございました。

## 4. 今後の課題

今回導入した事前学習システムについて、新規アドレスの取得やオンラインでの操作が不得手な受講者も少なからずいたため、今後の課題のひとつと考える。また、本研修会のニードは高いものの広報が行き届かなかった面がある。特に、医師の参加が少なかつたため、今後は地域の医師会などと密に連携していくことを検討したい。

## 5. 活動の成果等の公表予定(学会・雑誌)

活動者(助成申請者)は日本在宅医学会および日本緩和医療学会の学会員であり、今後開催される各学会の学術総会で本プログラム内容について発表する予定である。さらに、本プログラムのさらなる実施・普及に向けたプロジェクトを継続して行きたいと考えている。

地域医療・在宅医療に携わる方へ

## 精神疾患に対応するための多職種研修会

高齢患者には「せん妄」「認知症」「うつ病」といった3つの精神疾患を認めることが多いとされています。地域医療・在宅医療において患者は高齢化しているため、医療従事者にはこれらの精神疾患に適切に対応することが求められています。どのような治療やケアにつなげるのが良いのか？精神科への紹介のタイミングはいつか？

このたび、これらの知識やスキルの習得を目的とした研修会を企画しました。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

日時

2018年9月1日 SAT

13:00～17:00 〈受付12:30～〉

会場

慈風会記念ホール（健康管理センター3F）

津山市川崎1756 津山中央病院敷地内

内容

- 講義：せん妄・認知症・うつ病  
～各疾患のポイントについて～
- グループワーク（症例検討）
  - #セッション1：せん妄
  - #セッション2：認知症
  - #セッション3：うつ病

対 象：地域医療、在宅医療に5年以上従事している方（医師、看護師、薬剤師、その他）

定 員：30名程度

参加費：3000円（当日会場にてお支払いください。おつりの出ないようご協力ください）

※研修会前後にアンケート（研修会に関する評価）へのご協力をお願いいたします。  
研修会当日までに各疾患に関する講義動画を視聴していただくことを研修会への参加条件とします。

**応募締切：8月15日（水）**

多職種でのご参加をお待ちしております。  
皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

Supported by  Sasakawa Memorial Health Foundation



お問い合わせ

岡山大学病院 精神科神経科 井上真一郎（研修会責任者）  
〒700-8558 岡山県岡山市北区御田町2-5-1

TEL 086-235-7242（精神科神経科医局）

主催：岡山大学病院精神科リエゾンチーム

後援：一般財団法人 津山慈風会 津山中央病院

実際のチラシ